

## 意 見

1 1月14日 鈴鹿市役所で開催された都市計画道路 鈴鹿亀山道路の環境影響評価準備書の概要の説明ですが、中富田地区は、オオタカを含め、雉、鶯、メジロ、ホオジロ等貴重な鳥類が生息しており、道路による騒音、振動、排気ガス、粉塵等又、風の流れの変化等で生息は不可能であり、自然に包まれた環境が消滅します。騒音、振動等については、数値で言えばこれまで、ほぼ「ゼロ」であり快適な睡眠の確保が出来ていたが、レベル77とはいかがなものか、地形も環境も違う場所での机上の数値では疑問が湧き大変不安です。

9月8日の早朝の豪雨で、中央バイパス道路の雨水が鈴鹿市の河川「井戸川」護岸工事が殆ど無しに大量に流れ崖が大木2本共々崩れ河川を堰き止める程であった。又、同じく「河次川」この川も護岸工事が無く中央バイパスから大量の雨水が流れ関西線が水没し夕方まで復帰しませんでした。芥川の堤防も壊れ大きな被害が発生しました。中富田町の民家に浸水の恐れがありました。中央バイパス道路の雨水を河次川の排水設備（津賀町）大きく破壊された事が大きな一因と考えます。12月至っても修復工事は施工されていません。三重県の芥川も、特に広瀬町から中富田町に至っては、危険のいきを超えています。

こんな危険きわまり無い所にどうして道路の計画をたてたのですか、地元の住民との説明がありません。

コースの変更を切にお願いしたいものです。

## 都市計画決定権者の見解

鳥類や騒音・振動をはじめ事業特性及び地域特性並びに専門家等の技術的助言を踏まえて選定した全ての項目において、中富田地区周辺の環境に与える影響は、事業者として実行可能な範囲内でできる限り回避または低減し、環境保全の配慮が適正になされていると評価しています。

なお、今後の工事計画等の詳細な検討にあたっては、周辺他事業との調整を図りながら、環境影響評価の結果に基づき環境保全に十分に配慮して行うものとします。さらに、工事中及び供用後において現段階で予測し得なかった著しい環境への影響が生じた場合には、必要に応じて専門家の指導・助言を得ながら調査を実施し、適切な措置を講じます。

鈴鹿亀山道路の建設に伴う排水処理については、鈴鹿亀山道路の道路計画が都市計画決定され、詳細な構造を検討していく中で、河川管理者や地元自治会などと協議をしながら進めます。

現行ルート案は、工事中を含め供用後の自然的構成要素の良好な状態の保持や生物の多様性の確保、自然環境の体系的保全、歴史的文化的な遺産の保存等に計画周辺地に対して実行可能な範囲内で配慮するとともに、集落等の通過をできる限り避け、治水安全性並びに道路利用者の安全性を考慮したルート案であり、最適であると考えています。